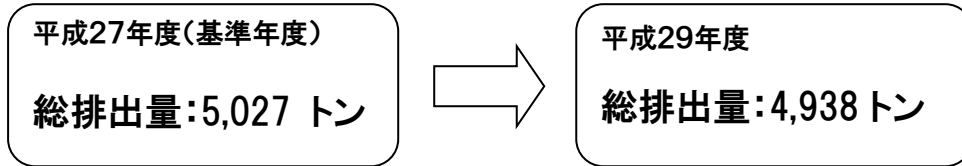


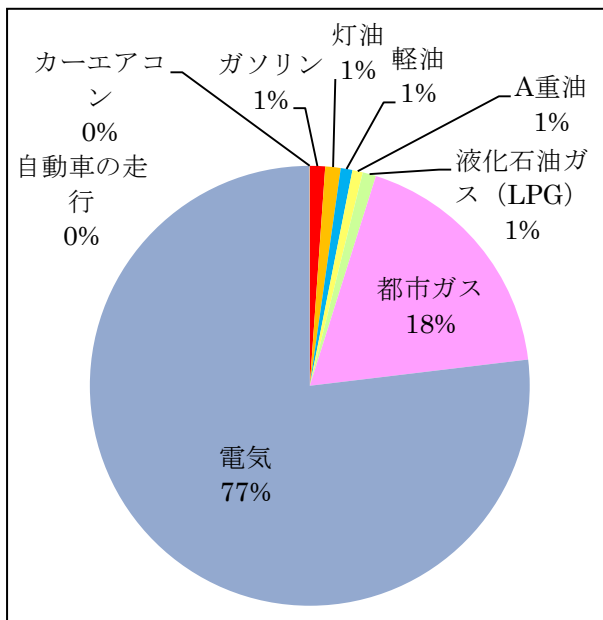
# 平成29年度温室効果ガス排出量まとめ

## 1. 温室効果ガス排出量について

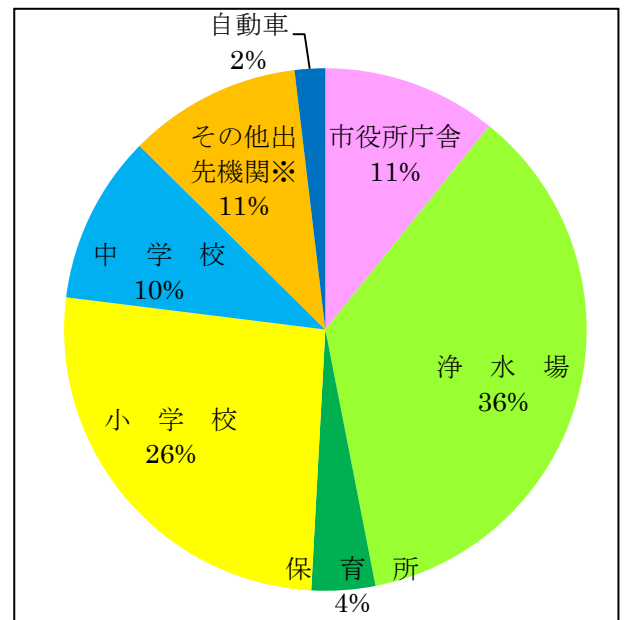


※平成27年度比 1.8%削減

発生源別二酸化炭素排出割合



施設別二酸化炭素排出割合



## 2. 森林整備によるCO<sub>2</sub>吸収量

🌲 森林整備面積：9.65ha

🌲 CO<sub>2</sub>吸収量：66.5t

H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29  
 $(45.7 + 59.2 + 157.0 + 108.2 + 65.7 + 52.0 + 31.9 + 30.5 + 48.0) \div 9 \text{年} = 66.5\text{t}$

全体(総排出量:4,938t-CO<sub>2</sub>吸収量:66.5t) = 4,872t

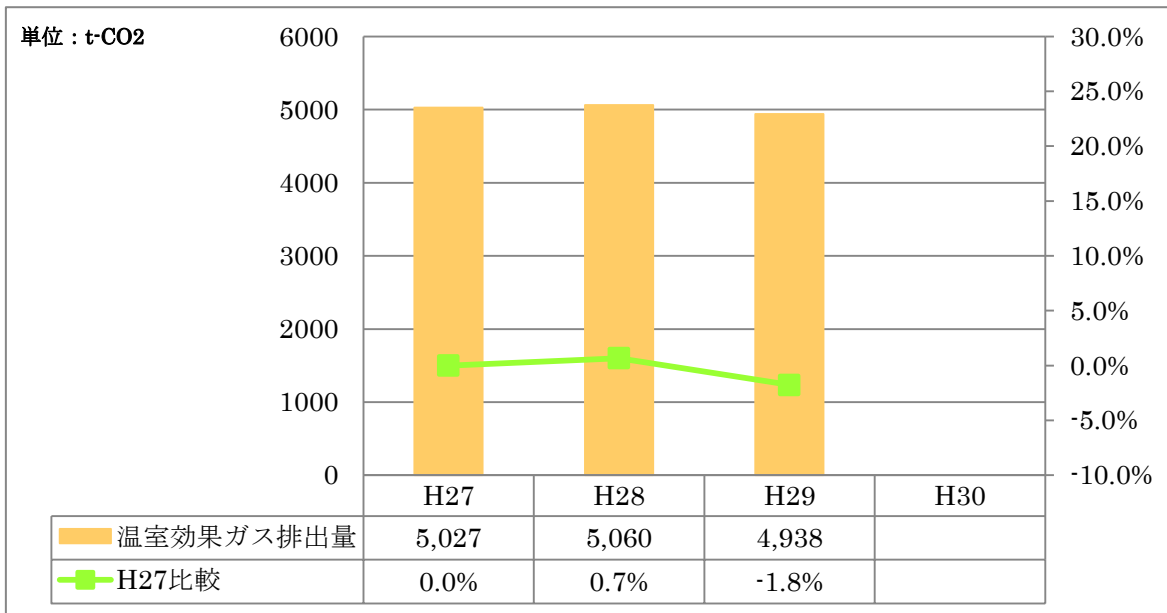
※平成27年度総排出量 4,953t

H27年度比  
1.6%削減

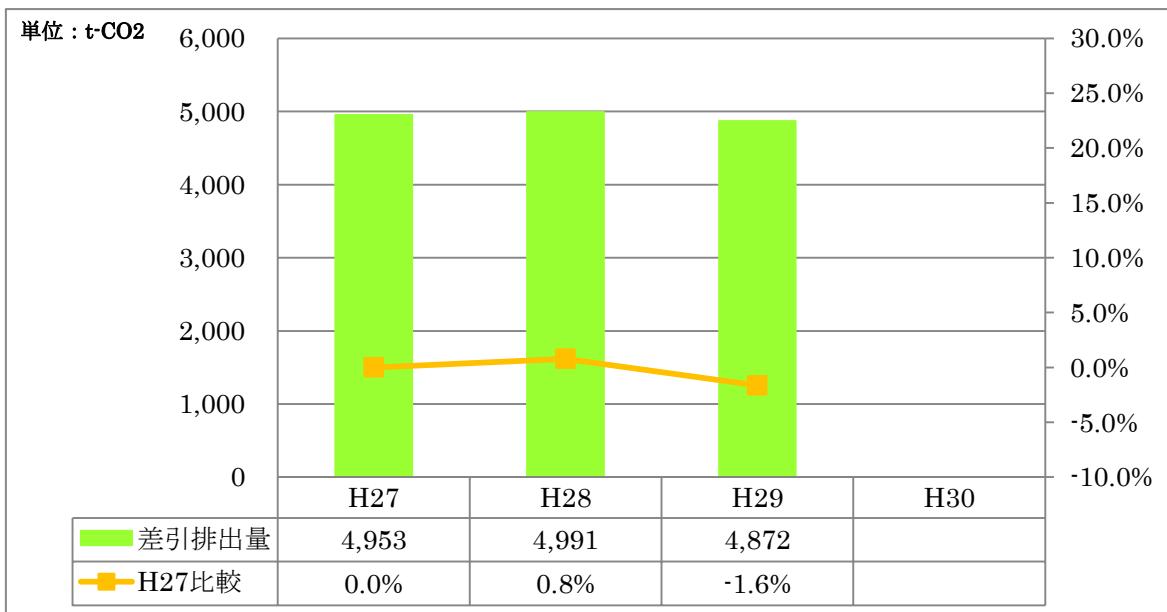


《推移》

① 【温室効果ガス排出量推移】



② 【温室効果ガス排出量（森林吸収量含む）推移】



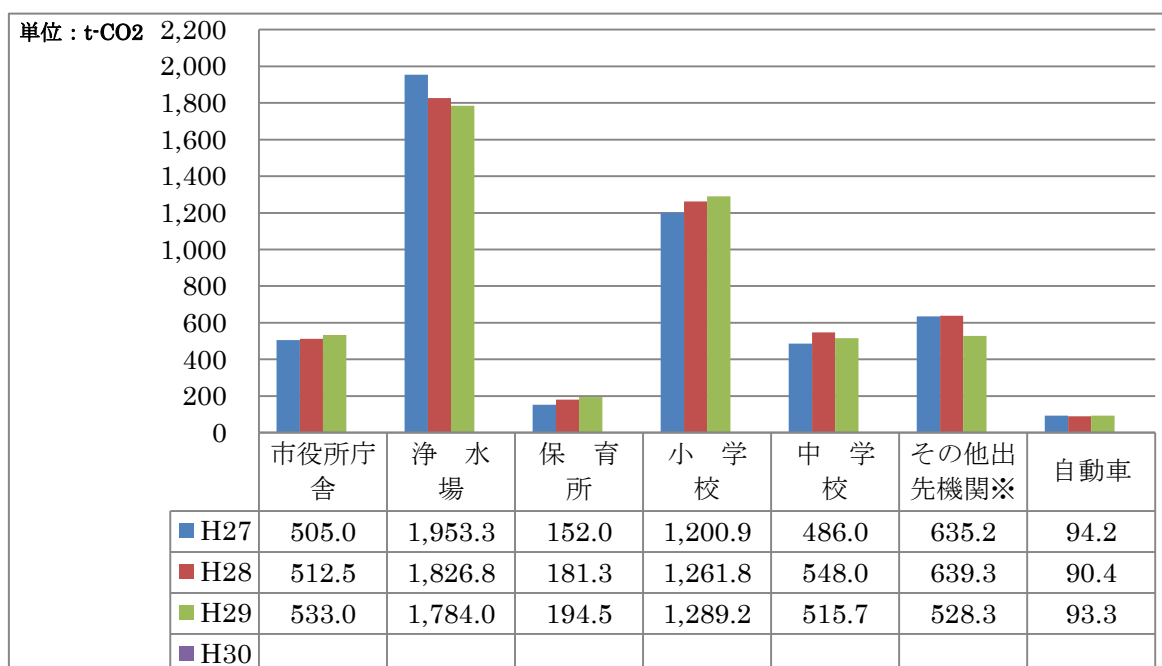
①のグラフは、基準年である平成27年度から計画の対象年度である平成30年度までの推移を比較したグラフです。②のグラフは、①の排出量から森林吸収量を差し引いたグラフです。

平成 29 年度に対象施設から排出された温室効果ガス排出量は 4,938 t であり、長岡京市役所地球温暖化防止実行計画の基準年度である平成 27 年度の温室効果ガス排出量 5,027 t と比較すると 1.8%削減することができました。また森林吸収量を含めた温室効果ガス排出量の比較においては森林吸収量の減少がありましたが 1.6%削減することができました。

温室効果ガス排出量を削減できた背景としては、平成 28 年 5 月に本稼働した北ポンプ場の稼働により長法寺ポンプ場のポンプ機能を停止したことによる電気使用量の削減です。浄水場全体としての電気使用量が 3.1%削減され、温室効果ガス排出量が 169 t - CO<sub>2</sub>削減されました。

次に電気の温室効果ガス排出量を見てみると平成 29 年度は 0.493 と平成 28 年度の 0.496 と比較して 0.6%下がりました。電気の排出係数は平成 27 年度の 0.523 を境に減少傾向にあります。全体として電気使用量を削減できたことと電気の排出係数の減少により、温室効果ガス排出量を 1.8%削減することができました。

### ③ 【施設別の温室効果ガス排出量推移】



※中央公民館、図書館、北開田会館、北開田児童館、老人福祉センター、保健センター、多世代交流ふれあいセンター

③のグラフは、基準年である平成 27 年度から計画の対象年度である平成 30 年度までの施設別温室効果ガス排出量の推移を表したグラフです。

施設別で見ると中央公民館及び多世代交流ふれあいセンターの温室効果ガス排出量が削減されています。中央公民館では平成 28 年度の空調改修工事期間に燃料として灯油を使用したことにより温室効果ガス排出量が増加していましたが、工事が終了したことにより灯油の使用がなくなったため削減されました。また多世代交流ふれあいセンターでは空調機器の燃料として A 重油を使用していましたが、空調改修工事（H29.10～12）により空調のエネルギーが電気に変わったことにより、A 重油の使用量が平成 28 年度と比較して半減したことが大きな要因です。そのほかの施設では、特に厳冬の影響を受け、空調設備の稼働期間及び稼働時間が長くなったことから温室効果ガスの排出量が増加したと考えられます。

平成 28 年 4 月からの電力小売自由化により今後競争入札により電気事業者を変更する施設も出てくるかもしれませんが、そのときには電気料金が安価でかつ、環境にやさしい電力（排出係数の低いもの）を購入していく必要があります。

今後も電気の排出係数の動向、環境の変化による猛暑・厳冬によって温室効果ガス排出量の算定に影響を与える可能性があります。長岡京市役所地球温暖化防止実行計画に掲げる取組みを着実に推進し、エネルギーの使用量の削減に取組み、市内有数の温室効果ガス排出事業者として率先して地球温暖化防止に努めていきます。